

未来を拓く！県立高校学力育成支援事業

アクティブ・ラーニング研究開発支援プログラムAL研究指定校

(H29～R1)

研究成果発表

能動的思考に導くALの在り方



鹿児島県立加治木高等学校

石井孝芳

※ 発表の流れ ※

- 1 昨年度の取組
- 2 本年度の取組
- 3 AL実践状況
- 4 能動的思考に導く指導の工夫
- 5 今後の取組

1 昨年度の取組

(1) 当初面談において

管理職が各自の「AL指数」の目標値を確認

(2) AL委員による県外先進校視察 (H30.9)

(3) 高校総合学力調査(1年生実施) (H30.10.20)

(4) AL研修会 (H30.12.27)

講師:茨城県立並木中等教育学校 中島博司校長

(5) AL研究指定校連絡協議会 (H31. 2.9)

(鹿屋・大島・加治木 3校)

→ 詳細については, 平成30年度「研究紀要」(第38号)を御覧ください。

※ (1)以外は1年目(H29年度)も実施した

2 昨年度の取組

【職員アンケート(H30.9)結果から見た生徒の変容】

- 進んで授業に参加する生徒が増えつつある。
- 課題に対して自ら考えようとする生徒が増えつつある。
- 相手に考えを論理的に伝えようとする生徒が増えつつある。



※ALを通して身に付きつつあると考えられるもの

- 1 進んで学習に取り組もうとする態度
- 2 課題に対して自ら考える力
- 3 自分の考えを論理的に表現する力

→ 詳細については、平成30年度「研究紀要」(第38号)を御覧ください。

2 本年度の取組

【本年度の課題】

一人ひとりが学習に主体的に取り組む、既存の知識を組み合わせながら、限られた時間の中で学習課題に対し最適解を考え、論理的に表現する力を高めるために、ALをどう活用すればよいか。



新しい入試制度に対応しうる、能動的に思考し、論理的に表現しようとする生徒の育成を目指す。

→年度当初、職員全体で共通理解した。

2 本年度の取組

※ 課題に取り組む上での留意点

1 ALの方法にこだわらないこと。

生徒が能動的に思考しているかどうかを重視。

2 個→対話→個のサイクルを用いること。

ALの目標は個々の深い学びを成立させること。

3 考えたことをアウトプットする場を設定すること。

自分自身の考えを客観的に見つめさせる。

2 本年度の取組

- (1) 「スクールタイマー」を全教室に設置
- (2) 当初面談において
管理職が各自の「AL指数」の目標値を確認
- (3) 高校総合学力調査(2学年 8月)
- (4) AL研究員による県外先進校視察(9月)
- (5) 相互授業参観.....

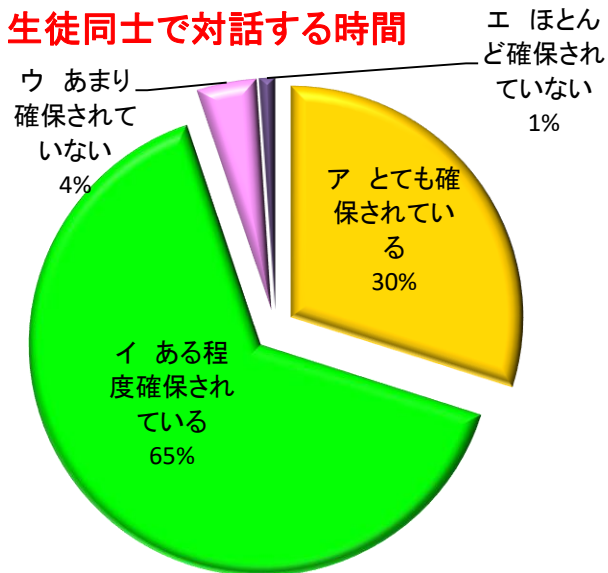


各教科で実践・研究を進めている

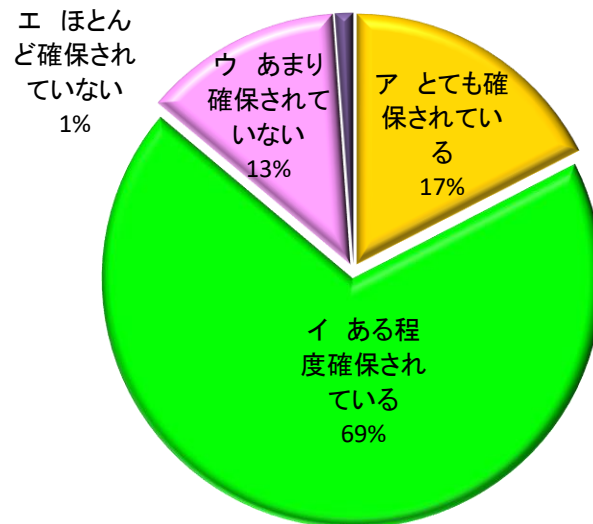
3 AL実践状況

授業に関するアンケート(生徒対象)調査結果

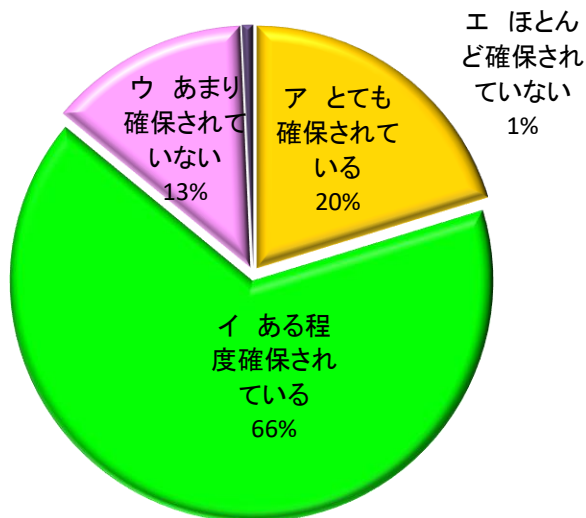
1 生徒同士で対話する時間



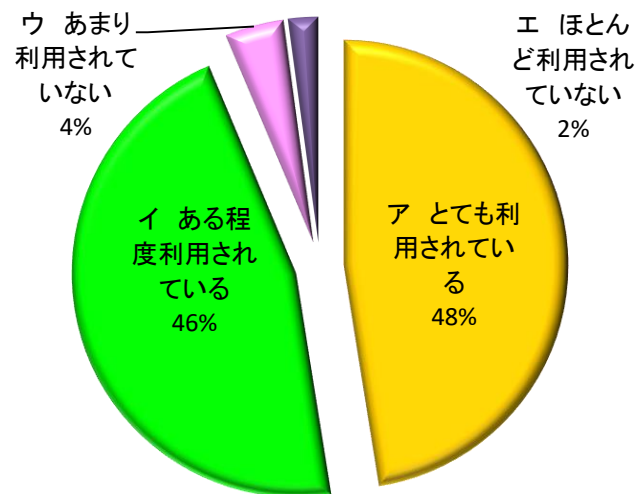
2 進んで考えたり, 深く考えたりする時間



3 考えたことを表現するための時間



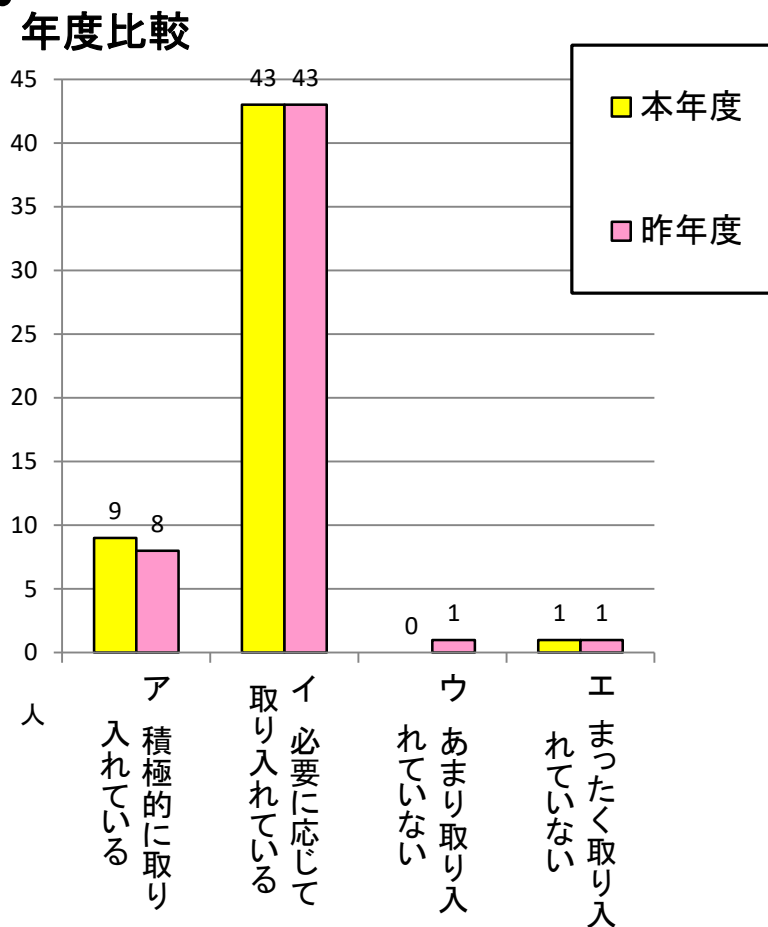
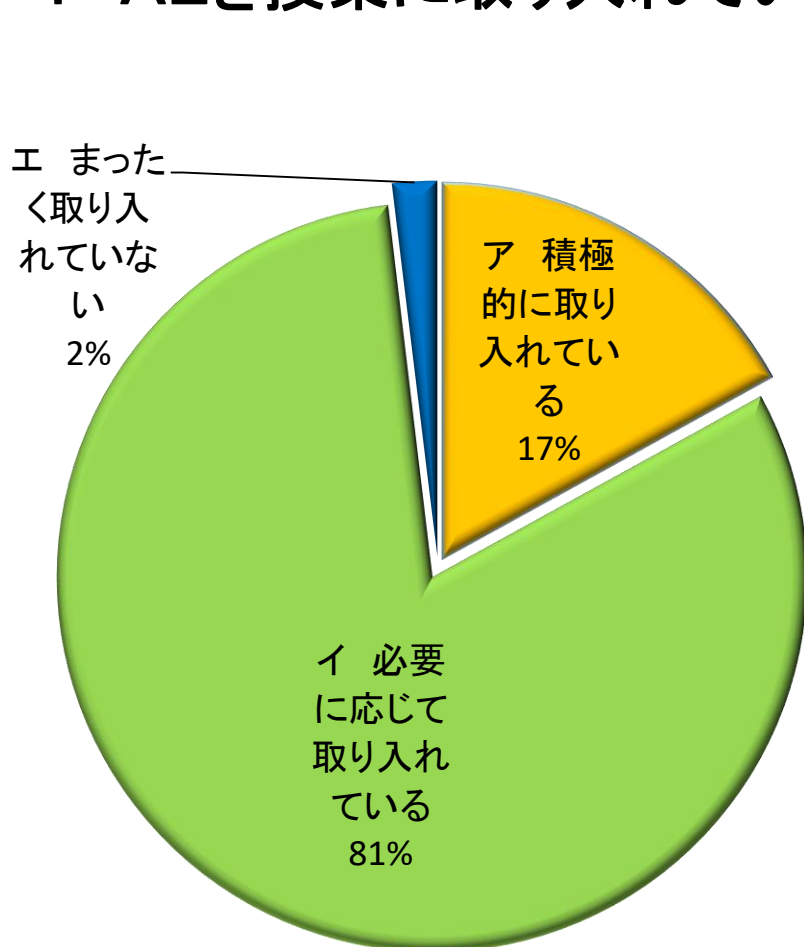
4 授業でのスクールタイマーの利用



3 AL実践状況

ALに関するアンケート(職員対象)調査結果

1 ALを授業に取り入れているか

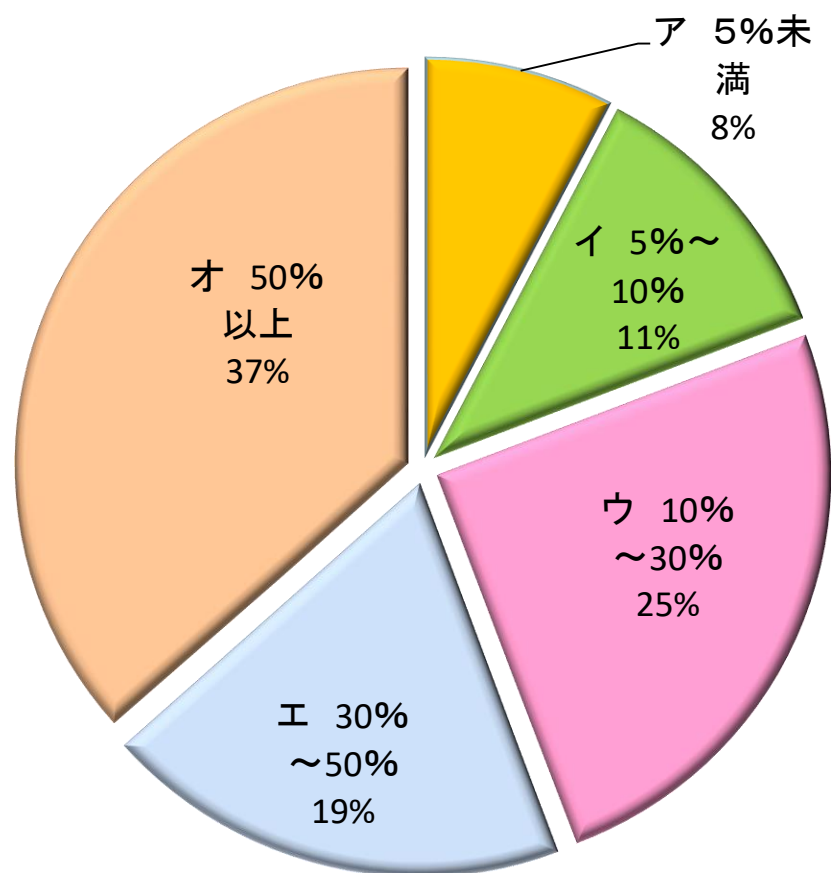


【註】本年度はALを「生徒を能動的思考に導く学習活動」と規定した。テキストとの対話や自己内対話を含め、様々な対象との対話によって生徒が知識を関連づけて能動的に思考する活動が成立していれば、たとえ講義形式中心の授業であってもALとして捉えている(以下すべて同じ)。

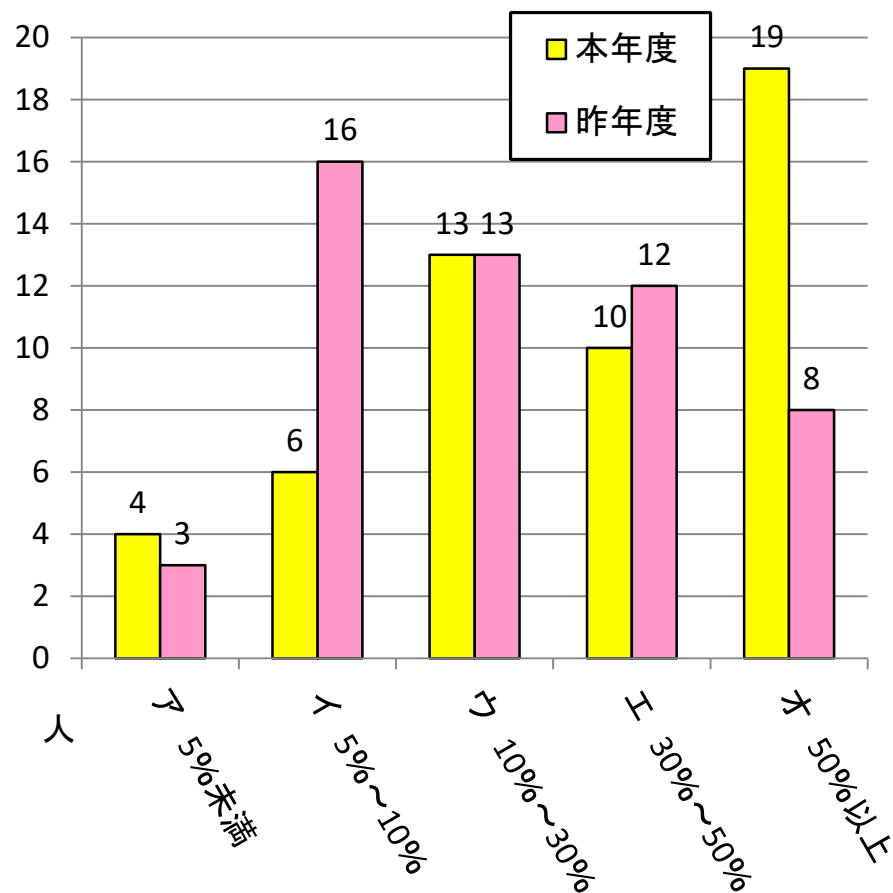
3 AL実践状況

ALに関するアンケート(職員対象)調査結果

2 週当たりALを取り入れている時数の割合



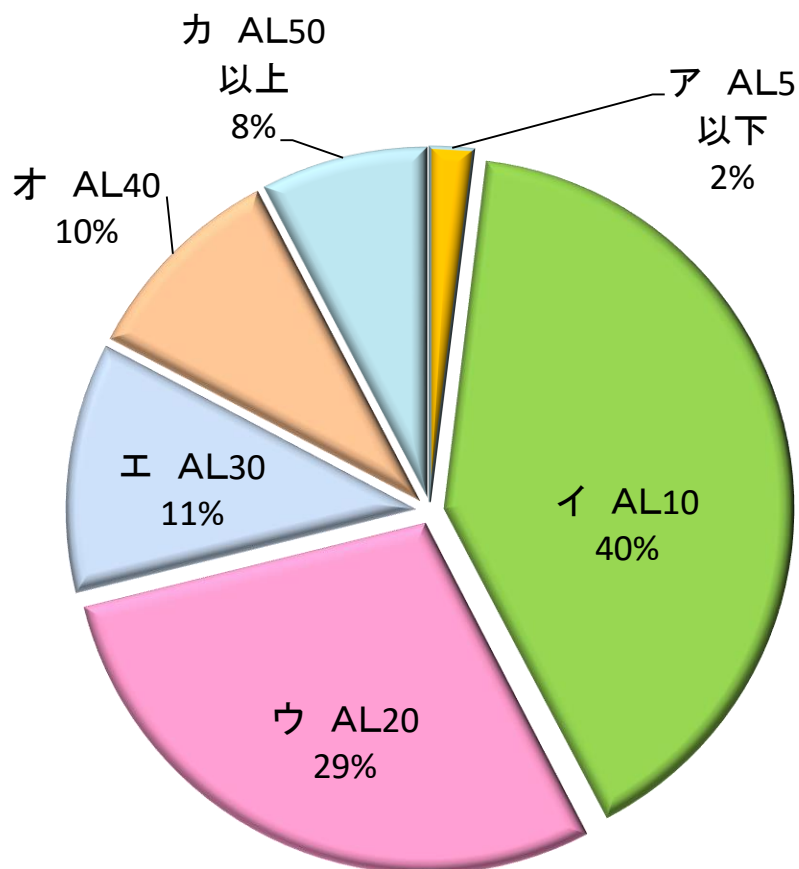
年度比較



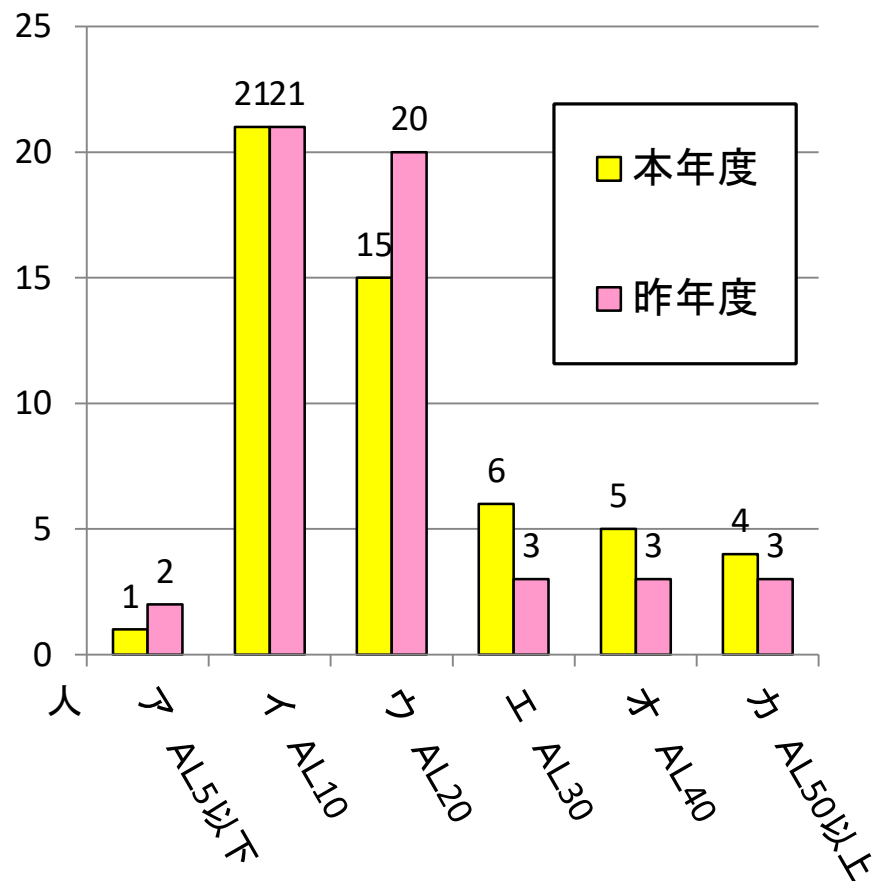
3 AL実践状況

ALに関するアンケート(職員対象)調査結果

3 50分間当たりのAL指数※



年度比較

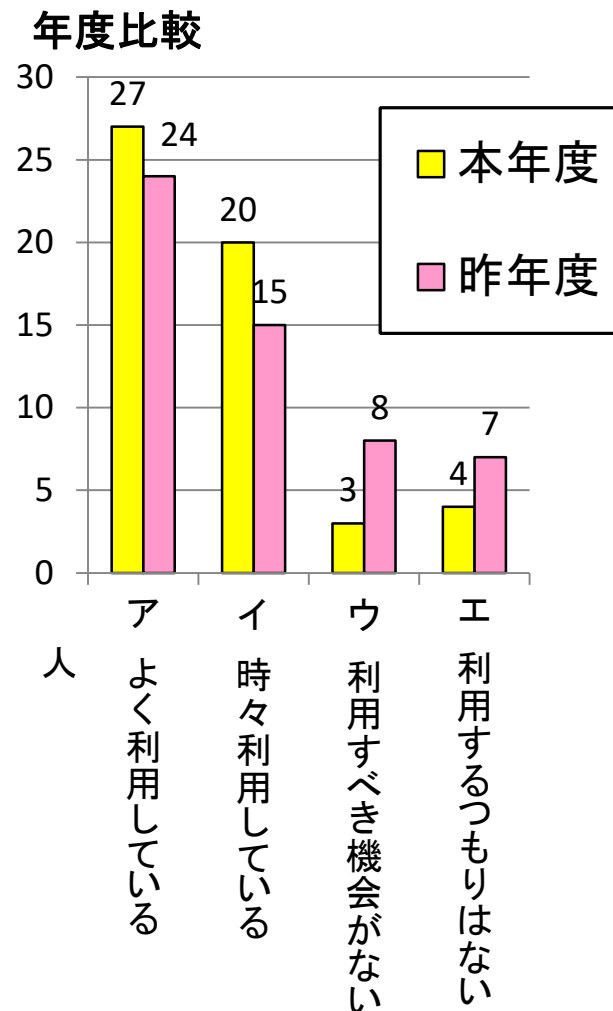
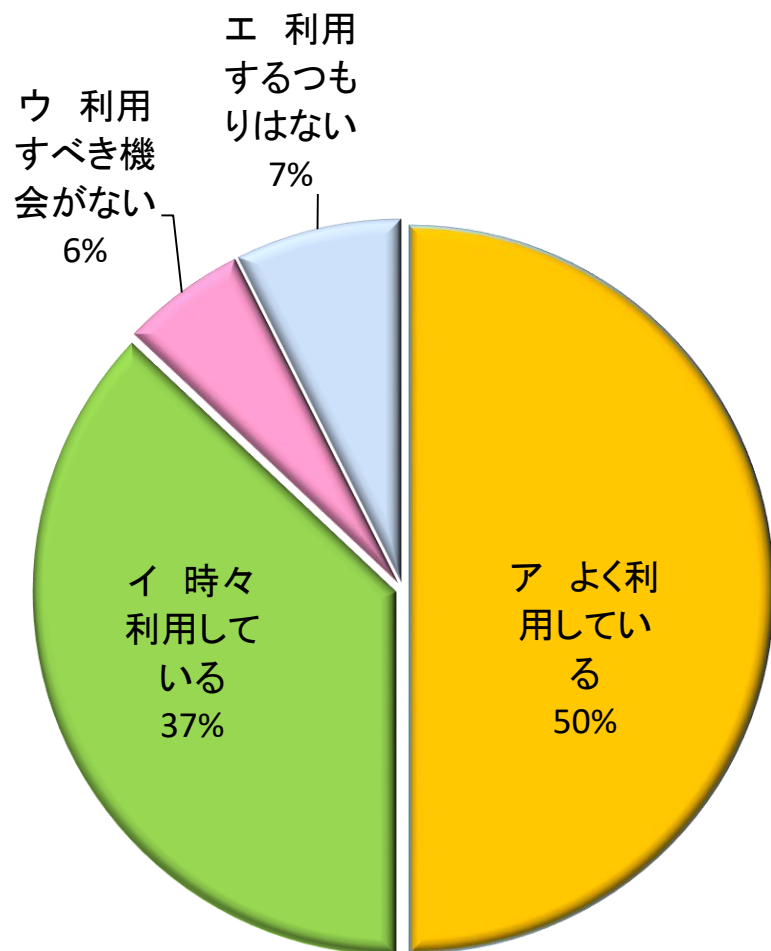


※ 茨城県立並木中等教育学校 中島博司校長が考案したALの実施率を示す指数。たとえば、50分授業で5分なら「AL10」、50分授業でAL10分なら「AL20」。

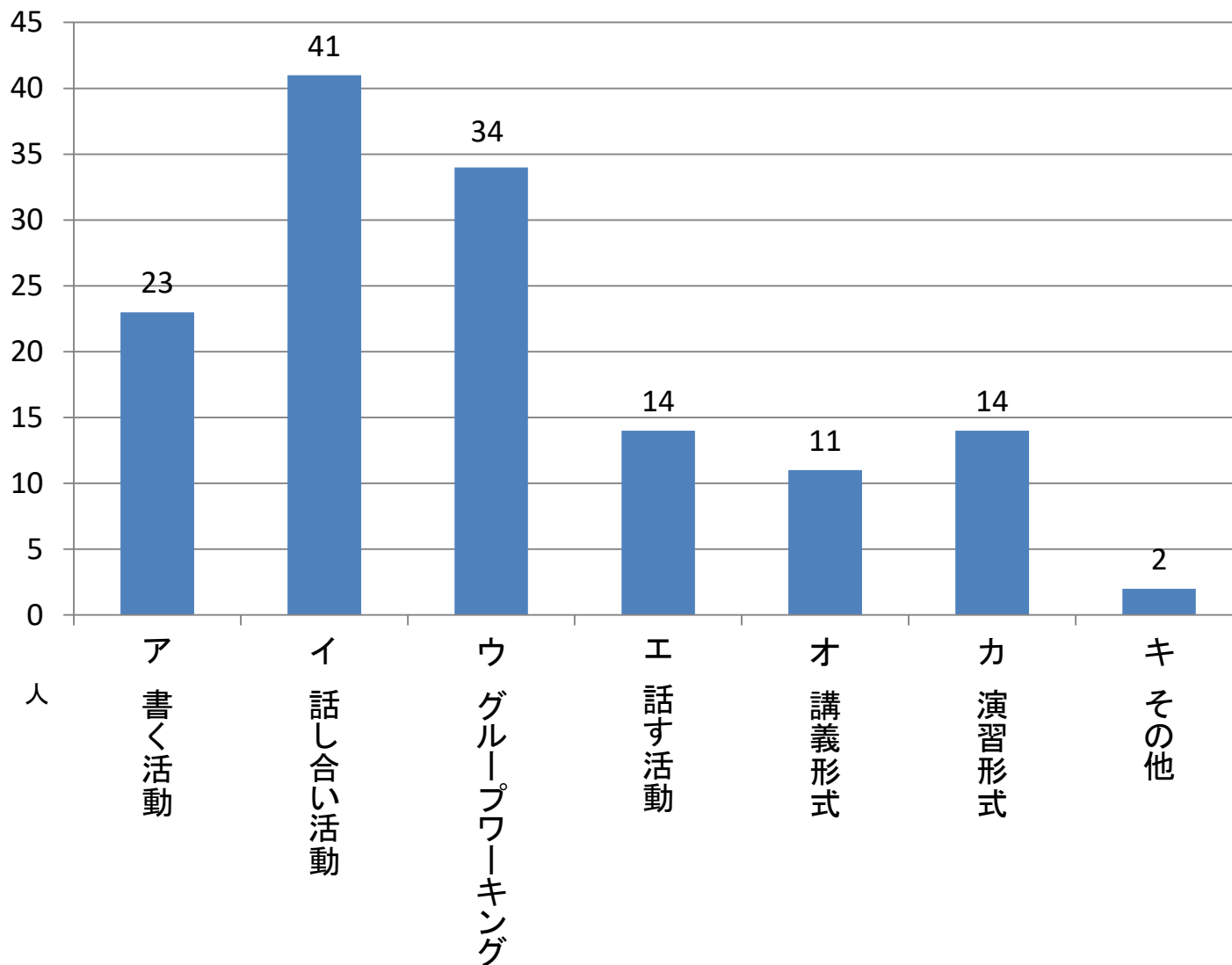
3 AL実践状況

ALに関するアンケート(職員対象)調査結果

4 「スクールタイマーを利用しているか。」



5 取り入れているAL(複数回答)



4 能動的思考に導く指導の工夫

○ 職員アンケート

「能動的思考に導くために、日頃から行っている指導の工夫」

回答の内容を整理し、次の8項目に分類した。

(1) 書く・話す・調べる

(5) 基礎・基本の重視

(2) 発問の仕方

(6) 雰囲気づくり

(3) 理由・根拠を問う

(7) 振り返り活動

(4) 考える時間の確保

(8) その他

能動的思考に導く指導の工夫 (1) 書く・調べる・話す

- R80※のように要約をさせている。
※茨城県立並木中等教育学校の中島博司校長が提唱しているALの手法。思考力・判断力・表現力，論理力の育成を 目的とし，生徒に授業を振り返らせ，80字以内(2文，文と文との間に接続詞を入れる)でまとめさせるもの。
- 書く活動の前に質疑応答によって話す活動を必ず行う。
- 講義形式であっても，必ず近隣の生徒同士で話し合う活動を取り入れている。
- 課題を与えて調べさせたり，考えさせたり，自分で活動させている。

能動的思考に導く指導の工夫 (2) 発問の仕方

- 毎時間、オープン・クエスチョンを用意している。
- 授業の導入部分での動機付けのために発問の工夫(クイズ形式)をしている。
- 授業の中で、どの場面で、どのような「問い」を設けるか、常に考えている。
- 発問の難易度を易→難と段階的に設定することによって、生徒が思考しやすくなるよう導く。

能動的思考に導く指導の工夫 (3) 理由・根拠を問う

- 発言に対して「なぜ」「どうして」と聞くようにしている。
- なぜそうなるのか説明させる。
- 「なぜそうなるのか」「理由は」の発問を多くすることを心がけている。
- 歴史的事象の背景や理由を生徒に発問し、考察させている。

能動的思考に導く指導の工夫 (4) 考える時間の確保

- 生徒が思考する時間を与える。
- 時間をかけて自分の力で考えさせる。
- ICTの活用で可能な限り思考する時間を設ける。
- あえて答えを出さない(説明しない)場面を設定している。

能動的思考に導く指導の工夫 (5) 基礎・基本の重視

- 観察力や気付く力の土台は、「みる力」である教科なので、基礎基本の知識や演習を各題材で扱い、それをもとに構想を深めさせている。
- データの比較, グラフの見方...など基本的な技能の練習・定着。
- 説明するための語彙が不足しているので, 簡単なものから難易度の高いものへ段階的に考えさせるようにしている。
- 知識がなければ考えることができないので, 作品や物事の背景を教えてから考えさせたり, 資料を組み合わせさせて考えさせたりする。

能動的思考に導く指導の工夫 (6) 雰囲気づくり

- 多くの人と交流しやすいように、グループ替えをまめにしている。
- 生徒の発言を否定せず、必ず受け入れて思考発展のヒントになるように教師側が工夫する。
- 自己肯定感、自己有用感の醸成に日頃から努めて、他者との対話がしやすい環境作りに努める。
- 体育ではグループごとにチームで活動する時間を設けている。部活動でも、効率よく活動できるように、準備・片付け、集団としての行動を考えさせている。

能動的思考に導く指導の工夫 (7) 振り返り活動

- 既習内容の振り返り等は問いかけの形で行う。
- 他の生徒と意見を交換し、その結果自分の考えがどう変化したかを振り返らせる。
- 学習した内容の定着のため、以前学習した内容を生徒相互で確認させ、忘れている場合には生徒相互で教え合わせる。
- 前時の復習部分で、生徒の意見を数名分紹介する。

能動的思考に導く指導の工夫 (8) その他

- (数学の)立体は自分で紙で作成させ、それを見ながら問題に取り組ませている。
- 考えをシェアすることにとどめる場合と、対立止揚させる場合との両面を大切にしている。
- 現在起こっている諸問題と関連させながら考えさせるようにしている。
- 手取り足取りは教えないようにしている。

4 今後の取組

来年度以降もAL実践状況を確認する。



能動的に思考する生徒の育成に向けた学習環境づくり

能動的思考に導く指導法を蓄積する。



AL指導法に関する加治木スタンダードの構築